

略歴・著書・論文

氏名 吉田 勉 (よしだつとむ)

略歴

- 1968年3月 東京都立石神井高等学校卒業
- 1973年3月 埼玉大学教育学部中学校過程社会科卒業
- 1974年3月 埼玉大学教育学部研究生修了
- 同 4月 大宮市役所入職 (一般行政職)、2001年に合併によりさいたま市に。
- 2004年4月 慶應義塾大学文学部特別招聘講師 (現職)
- 2008年3月 さいたま市を定年退職
- 同 4月 さいたま市教育委員会再任用 (翌年3月退職)
- 2009年4月 東日本部落解放研究所・事務局長 (現職)
- 2013年4月 学習院大学経済学部非常勤講師 (現職)

著書

- 共著『叢書〈産む・育てる・教える—匿名の教育史2〉(家族—自立と転生)』、1991年、藤原書店
- 共著『東日本部落解放研究所・歴史論集／東日本の近世部落の具体像』、1992年、明石書店
- 共著『込皆戸の歴史と生活／粕川村込皆戸地区・歴史調査報告書』、1994年、東日本部落解放研究所
- 共著『埼玉の部落—歴史と生活』、1997年、埼玉県同和教育歴史教材編集委員会
- 共著『部落史研究5 地域史研究と被差別民史の接点』、2000年、解放出版社

論文

- 「惣村型・男女参加型文化と階層型・家父長型文化—石造物に見る近世村落文化の変容—」、『信濃』第42巻、1991年、信濃史学会
- 「近世後末期における被差別部落の支配・経済・社会・文化状況について—大宮および埼玉を中心に—」、『東京部落解放』第67号、1990年、東日本部落解放研究所
- 「近世の子供組」、『比較家族史研究』、1991年、比較家族史学会
- 「関東 戦国期被差別民衆と近世賤民身分制—関東・九州・畿内を対照させつつ—」、『部落解放』第357号、解放出版社
- 「歴史教材『埼玉の部落—歴史と生活』の刊行について—部落史見直しの方法意識にふれつつ—」、『明日を拓く』第17・18号、1997年、東日本部落解放研究所
- 「嘉永四年の「ヒューマンライツ」—近世被差別部落の歴史像をめぐって—」、『解放研究』第13号、2000年、東日本部落解放研究所
- 「幕末維新期の人権・差別・地域社会—「〈差別／交流〉の同在性」の方法化をめぐって—」、『解放研究』第14号、2001年、東日本部落解放研究所
- 「国土・境界・神仏習合・ケガレ(上・中・下の1・2・3)」、『明日を拓く』第46~58号、2003年~、東日本部落解放研究所

- 「江戸時代の長吏村落の手習い塾ーリテラシー・闘う「自由」ー」、『明日を拓く』第72号、2008年、東日本部落解放研究所
- 「構造的・動的な部落史の可能性ー『大阪の部落史』近世編を読んでー」、『部落解放』第613号、2009年、解放出版社
- 「戦後アジアのなかのジェンダー・部落問題への問題提起に立ち会う(上)」、『明日を拓く』第90号、2007年、東日本部落解放研究所
- 「戦後アジアのなかのジェンダー・部落問題への問題提起に立ち会う(下)」、『明日を拓く』第94号、2008年、東日本部落解放研究所
- 「部落差別・弾左衛門・浅草ー出版された古地図の「穢多村」記載をめぐってー」、『すいへい・東京』No. 38、2012年、東京部落解放研究所
- 「部落史の何が見直されているかー差別が繰り返される理由を考えるー」、『すいへい・東京』No. 40、2013年、東京部落解放研究所
- 「前近代部落史研究の課題と展望」、『部落解放研究』NO. 200、2014年、部落解放・人権研究所
- 「近世そして近現代、周縁化・不可視化される部落ー東京東部エリアの部落史を中心に」、月刊『部落解放』第747号、2017年10月号、解放出版社
- 「部落差別の主題化と歴史学的アプローチー部落差別の特性としての「穢れ視・動物視・人外視」という仮説ー」、『解放研究』第29号、2017年、東日本部落解放研究所